

■大平文庫■

昭和 40 年 10 月、大平正芳氏は同郷の子弟の訓育に心を傾け、観音寺市にあった自らの事務所に「大平文庫」を開設し、数千冊の図書を地元の人々の利用に供してきました。昭和 60 年 6 月、財団法人大平正芳記念財団が設立され、「大平正芳記念館」を開館し、大平氏の遺品や関係資料を収集・展示して、ひろく一般の研究に役立てることにしました。

平成 27 年 3 月、大平正芳記念館の閉館に伴い、その蔵書をはじめとし、大平氏の著作や研究書、大平正芳記念賞受賞作など約 8,500 冊が、大平正芳記念財団から県立図書館に寄贈されました。

当館では、まとまった形で保存し、広く県民に利用していただくため、平成 28 年 2 月「大平文庫」を開設しました。

読書家で文筆家として知られていた大平氏の蔵書は、政治・経済の分野にとどまらず、哲学、歴史、文学など多岐にわたっています。

当館 1 階の閲覧室郷土資料コーナーの「大平文庫」には、大平氏の思想、活動、足跡等がわかる分野の図書や著作・研究書など約 1,000 冊を開架しています。

■大平正芳 略歴■

(おおひらまさよし 1910～1980)

明治 43 年 3 月 12 日香川県三豊郡和田村(現観音寺市豊浜町)に生まれる。東京商科大学(現一橋大学)卒業後、昭和 11 年大蔵省に入省。

昭和 27 年、衆議院議員に当選。内閣官房長官、外務大臣、自民党政調会長、幹事長、通産大臣、大蔵大臣などを歴任。

昭和 53 年自由民主党総裁となり、内閣総理大臣に就任。昭和 55 年 6 月、衆参同日選挙のさなか死去。享年 70 歳。



■主な著作■

『財政つれづれ草』如水書房(1953)

『素顔の代議士』20世紀社(1956)

『春風秋雨』鹿島研究所出版会(1966)

『旦暮芥考』鹿島研究所出版会(1970)

『風塵雑俎』鹿島出版会(1977)

『私の履歴書 大平正芳』日本経済新聞社(1978)

『複合力の時代』田中洋之助共著 ライフ社(1978)

『永遠の今』大平正芳回想録刊行会編 大平事務所(1980)

『大平正芳全著作集 全7巻』講談社(2010～2012)